

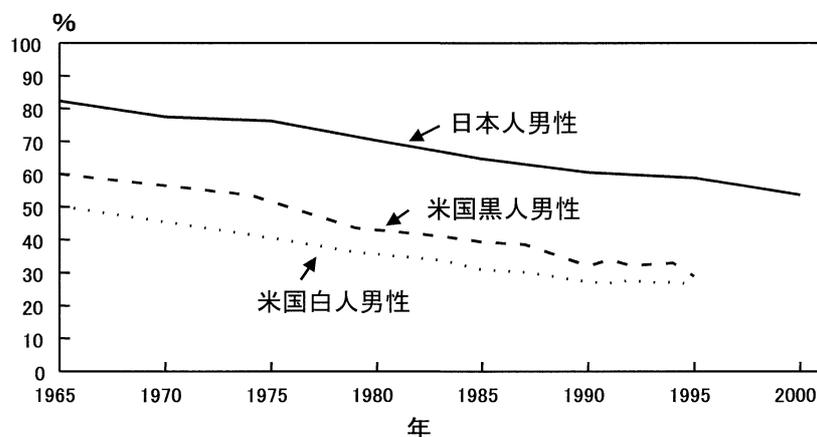
日本とアメリカの喫煙率の推移

アメリカでは喫煙対策が進んでおり、成人喫煙率は2000年には20%台まで低下してきています。またそれに伴って、肺がん死亡率も循環器疾患死亡率も低下を続けています。これに対して日本では喫煙率は依然として高率で、成人男性の喫煙率は2000年時点でも50%を超えていました。また、肺がん死亡率は増加を続け、1999年には遂に肺がんはがん死亡のトップとなりました。

日本人喫煙率の経年推移を日本たばこ産業（株）の調査で見ると、成人男性の喫煙率は1965年（昭和40年）には82.3%にも及んでいましたが、年々低下を続け、2001年（平成13年）には52.0%となりました。このように喫煙率に低下傾向は見られるものの、残念ながら未だ先進諸国の中では際立って高い喫煙率を示しています。成人女性の喫煙率は先進諸国と比べて低率で、同じ期間に15.7%から14.

7%へと推移しました。しかしながら、20歳代、30歳代の若い女性では喫煙率が年々増加してきています。

これに対してアメリカでは、黒人男性の喫煙率も白人男性の喫煙率も低下傾向が続き、1995年にはいずれも喫煙率は30%をきるレベルにまで到達しています。（米国厚生省調査）女性の喫煙率は日本より高率ですが、低下傾向は持続しており、1995年には25%程度になっております。



成人男性喫煙率の経年推移（日本とアメリカの比較）